

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（22）七二〇七

座談会

ハンドルの握って闘い続けた三里塚・ジェット闘争 五年間をふりかえって

職場討論の深化のために②

押しかけてきた時は、普段はあまり組合に関心のなかったような人たちまで、「本部」の革マルに「お前ら、職場には入れないぞ」と怒鳴っていて、やる時はやるんだと頼もしく思いました。

「ハラは決まった」

—— 団結署名 ——

（司会）

動労千葉の団結署名については、どうだったですか？

（Dさん・館山・電運士・四一歳）

館山支部はすんなりいきましたね。どうするも、みんな進もう、ということ。これも、むこうの「オルグ」が来たおかげだね。（笑）

（Aさん）

新小岩支部は、大宮・武操・田端と「本部」との接点があった所にあって、それらの出先で毎日のように「オルグ」とやらとやり合っていた。電気の乗務員がその矢おもてに立っていたわけですが、ここも少し遅れはしましたが、ごく自然のなりゆきという感じで動労千葉への団結署名に結集していきました。

その時にこぼれていた格和と木皿の二名は、今もまだ居るには居るらしいんだけど、いつどこに居るんだかさっぱり影の薄い存在だね。

（Hさん）

職場集会で支部長が、「ハラは決まった」と言ったら、よし、そんなら今書こう、ということ、全員がその場で署名していった。内心はみんな必死だったけどね。

（Gさん・勝浦・気運士・四五歳）

勝浦では、集会をやってから団結署名を始めました。十人位がもう少し考えさせてくれというので、更に一週間ぐらい討論を重ねました。主には、「三里塚闘争について」とか「一四〇〇で何ができるか」とか「財政問題」等の心配とか、いろいろありましたが、とことん討論して、一人ももれなく団結していきました。

（以下、つづく）

I 確信と団結の固めた 分離独立の過程



執行部を先頭に全員が本部、オルグと対決。（1979年4～5月）
手前＝木更津支部

自分の眼で確かめて決断

（司会）

動労千葉結成前後、内部的にはどうでしたか？

（Hさん・木更津・気運士・四一歳）
はじめ心配もあったけど、フタをあけると、一声でどんだん団結署名が集まっ塚ていきましたね。

（Fさん・勝浦・電運士・五〇歳）

三 勝浦では、「本部」のやつらの暴力行為をほとんどの組合員が現実に見ているんで、団結署名もスムーズにいきました。

（Aさん・新小岩・機関士・四七歳）

一〇一定中委などの傍聴に行った人は、大変な事態だとわかっていっているんだけど、最初のうちはいくら話してもなかなか信じられないという人もいました。だから、動員に出て、自分の目で見、耳で聴いて判断してくれとみんなに言ってたんです。新小岩支部の結成大会の時は、「本部」のオルグ動員が六五〇人も押しかけて来て、結成大会を暴力的にぶっこわそうとしてきた。それで、こちらはバリケードを築き、クギで打ちつけてあかないようにして玄関でやり合って、結成大会を成功させた。

みんな真剣になってやって、立派な結成大会だったと今でも自信をもっているんです。

危機に強い組合だと思う

（司会）

青年部員として、実感したことは？